

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成28年 7月 5日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科内科学講座臨床免疫学

職 名・学 年 研 究 生

氏 名 中 島 俊 樹

| | | | |
|------------|---|----------|----------|
| 助成の種類 | 平成28年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成 | | |
| 研究集会名 | 2016年欧州リウマチ学会年次集会 | | |
| 発表題目 | Association of IL-12p40 and IL-12p70 with the pathophysiology of Takayasu arteritis | | |
| 開催場所 | ExCel London, London, United Kingdom | | |
| 渡航期間 | 平成 28年 6月 6日 ~ 平成 28年 6月 12日 | | |
| 成果の概要 | タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(口演時の写真) | | |
| 会計報告 | 交付を受けた助成金額 | 350,000円 | |
| | 使用した助成金額 | 350,000円 | |
| | 返納すべき助成金額 | 0円 | |
| | 助成金の使途内訳 | 学会登録費 | 35,000円 |
| | | 往復航空券代 | 150,000円 |
| | | 現地滞在費 | 150,000円 |
| | | 国内移動費 | 6,600円 |
| 現地移動費 | | 1,500円 | |
| | 上記356,600円のうち350,000円 | | |
| 当財団の助成について | (今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) Ⅱ期での申し込みだったため採択から実際の渡航までの期間が短かったのですが、対応が迅速だったため学会に間に合いました。ありがとうございました。 | | |

成果の概要

大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学
研究生
中島俊樹

学会の概要

今回私が参加したのはロンドンで開催された EULAR(the European league against rheumatism)の 2016 年年次集会である。この学会は世界で最も大きなリウマチ学の学術集会の 1 つであり、6/8~6/11 の 4 日間の会期中に 100 以上の国から 14000 人を越す参加者が集まり、34 のテーマに分かれた演題もポスター、口演あわせて 2000 以上と非常に活況を呈していた。また、研究成果の発表以外にも症例の検討を行うものやライブセミナーなど多様なセッションがあり、参加者の教育という側面も持ち合わせた学会である。

発表の概要

今回の私の演題は' Association of IL-12p40 and IL-12p70 with pathophysiology of Takayasu Arteritis'であった。高安動脈炎は若年女性に多い大血管炎でその病態は明らかになっていない。以前、我々は高安動脈炎において炎症性サイトカインの構成蛋白である IL-12p40 をコードする遺伝子である *IL12B* 領域内の SNP が高安動脈炎と関連することを示した。しかし、IL-12p40 の高安動脈炎における病的意義は明らかになっておらず、IL-12p40 をサブユニットとしてもつ IL-12p70 についても一貫した見解がなかった。そこで、われわれは今回 IL-12p40 や IL-12p70 の高安動脈炎における意義を明確とすることを目的として血漿中や培養上清中のサイトカイン測定を行い、高安動脈炎患者では IL-12p40、IL-12p70 の濃度が上昇していること、およびその濃度の違いには SNP の違いが関与している可能性があることを見だし、それについて口演した。

EULAR の年次集会は毎年明確なテーマは設けていないが、今学会は全体を通して大血管炎のセッションが多く配されている印象があり、注目テーマの 1 つなのではないかと感じた。そのおかげか多くの方が発表を聞きに来てくださり、多数の質問も受け非常に活発な発表となった。

今回の発表による収穫

まず一番の収穫は多くの研究者に自説を紹介することができ、ディスカッションをするチャンスが増えたことである。たとえば口演後、NIH で同様のサイトカインの研究を行っている研究者の方が話をしに来てくださり、アメリカでは高安動脈炎の IL-12p40 や IL-12p70 には差を認めなかったことを教えてくださった。さらに、SNP によって産生量が違うのであれば遺伝的バックグラウンドによる違いで説明が可能で日本人に高安動脈炎が多いことの説明にもなるかもしれないという点にまでディスカッションを進め、今後の研究方針についての参考となった。また、ポスター発表の会場で質問をした方がたまたま私の口演を聞いてくださっており、疑問点をその場で聞いてくださってディスカッションが出来たりもして知見が大いに広

がった。

また、世界各国から参加者が集まるため地域ごとによる違いを知ることができたのも収穫であった。私がテーマとしている高安動脈炎は発症に地域差があり東アジアに多いことが知られているが、インドやウクライナの研究者と話をしたところそれらの国々と日本とでは罹患しやすい血管部位や性比が違っていた。遺伝的背景や環境要因による病態の違いを反映している可能性があり、個人的には非常に興味深かった。

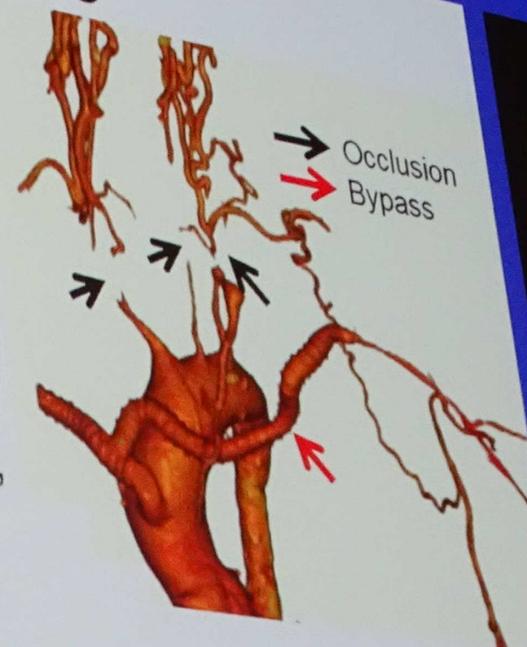
最後に、今回の口演では事前に原稿を作って発表しており、発表そのものはあまり滞りなく進めることが出来た。しかし、質疑応答では質問者の英語が聞き取れなかったり意図が理解できなかったり、あるいは自分の回答したいことが英語で表現できなかったりと自分の英会話のレベルが低い事を痛感した。自分の英語能力をもっと鍛える必要があることが分かった点も大きな収穫であった。

謝辞

国際学会で大勢の前で発表するという貴重な機会を得たため、本学会は是非とも参加したい学会であった。その反面、国際学会中のロンドンということで宿泊にかかる費用が高額なものになりヨーロッパまでの航空運賃が高いこともあり、渡航費用の捻出が大きな問題であった。ところが、この奨学金を得たことで参加にかかる費用をほぼすべてまかなうことができ、余計なことに気をとられず学会準備に注力することができた。この場を借りて学会参加への助成を頂いた京都大学教育研究振興財団に厚く御礼申し上げます。

Backgrounds

• Takayasu Arteritis (TAK) is a type of large vessel vasculitis, which affects aorta and its main branches. Stenosis, occlusion or aneurysm of affected vessels can occur and lead to organ failure including stroke, visual disorder, aortic regurgitation, renal failure etc.



• Because TAK is associated with HLA-B*52¹⁾, genetic factors play an important role in developing TAK. But detailed pathophysiology of TAK has not been revealed.

1) Isohisa et al. Tissue Antigens. 1978;12(4):246-8



Toshiki
Nakajima

eular 2016

EULAR Congress

